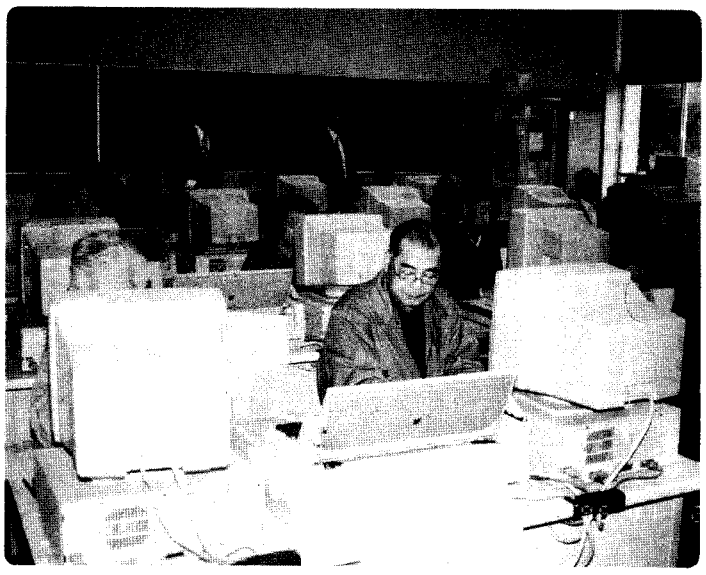
小須戸公民館報

発行所 小須戸町中央公民館
発行人 岡 謙吾
発行日 毎月15日

氾濫する情報の中で 教育について再考する

～多様なメディアを活かすには～

県立新津南高等学校長 鈴木 眞



色々な場で、情報についてを学習することができます

情報洪水の中で

司法・立法・行政の三権に加えて、新たに第四の権力としてマスメディアが登場してきました。そして、マスメディアの強大な影響力は、私たちの生活の上に大きな変革を与えつつあります。

すなわち、従来では想像もできなかったような生活の便利さがあります。家庭等に居ながらにしてテレビ、ラジオ、新聞等を通じてニュース情報、種々な娯楽や教養に関する情報を受け取ることができます。また必要とする情報を、例えば天気予報、株式、交通情報等についてテレフォンサービス等により、知りたい時にどこからでも入手できるようになっています。このように、生活していく上で必要な情報が即時に安価で入手しうるようになっていて、生活の便利性、快適性が高まってきております。

情報化は、このような生活の利便性、改訂既成をもたらしましたが、一方、マスメディアの進展による大量の情報を受け続ける事態、いわゆる情報洪水は、個人を受け身の状態に置き、また、類似・均一的な情報を浴び続けることによって、ややもすれば、情報を十分咀嚼(そしゃく)できない状態に置き、その結果個人の思考方式、生活様式の画一化をもたらす要因となっています。特に、心身ともに自己形成過程にある青少年に対する影響は、測り知れないものがあります。マスメディアにどのように対処していくべきか、これはみなさんにとって大変重要なことであります。

「マスメディア」の登場

約三十年ほど前から、「第三の教室」という言葉が聞かれるようになってきました。いうまでもなく、教育の場の第一は家庭であり、第二の場は学校です。家庭教育と学校教育という二つの柱が教育の中心でした。このような伝統的な教育論のなかに、「第三の教室」が登場してきたのです。「第三の教室」、それはマスメディアです。たとえば、テレビ、マンガ雑誌などです。みなさんは、この「第三の教室」のなかで、好むと好まざるとにかかわらず、おびただしい量の知識や情報を獲得しているのです。

「三つの教室」の不調和

この三つの教室が、お互いに連続していれば、みなさんの精神生活に一貫性ができ、安定して心配はないのですが、残念なことに、この三つの教室のあいだに、調和ではなく不調和が、連続ではなく非連続が存在しているのが現実です。

情報は多種多様に入手できます

まず、家庭での躾と学校教育の内容とのあいだにはしばしば矛盾があり、時には衝突もあります。たとえば、家庭で教えられる競争原理と学校教育の基本精神である平等主義とは相容れないものがあります。

けれども、家庭と学校とのこのような矛盾や非連続性は、PTAというような組織を通じて意思の疎通をはかる場があります。

ところが、「第三の教室」は他の二つの教室とは全く関連するところがありません。例えば、娯楽番組を制作するテレビ局のプロデューサーと家庭とのあいだにはなんの連絡も存在しないし、マンガ雑誌の編集者と学校の教職員のあいだにも一切のコミュニケーションは存在していません。

そして、「第三の教室」が、子どもたちにもたらす情報は、家庭や学校が用意している情報と全く乖離(かいり)し、矛盾しているのです。その影響力は、家庭や学校のそれを遥かに上回る強力なものです。両親や兄弟、そして学校の先生たちから教えられるものは、もちろんみなさんの心のなかに大きなものを残すけれども、テレビ番組が青少年の心に与える衝撃は強烈です。青少年たちだけでなく、大人も同じような状況におかれています。新聞やテレビで報道されたことはおおむね信頼できるものとされていますが、それに反して家族や友人たちの話というのは必ずしも全面的な信頼を与えられてはいません。マスメディアというのは、その受け手が青少年であれ大人であれ、こういう重大な、そして不思議な性質をもっているものです。

正しい処理のし方と自己の確立を

勤勉と努力、そして誠実さが、家庭や学校の基本哲学であり、基本原則です。それに対し「第三の教室」は、娯楽本位、興味本位であり、必ずしも誠実や勤勉を子どもたちに教えるものではありません。むしろ、ときにはそれを否定する立場にたつことすらあります。

このマスメディアの流れをおしとどめることは不可能に近いものがあります。

このような情報化社会のなかにあって、最も大切なことは、他に惑わされず、メディアに振りまわされず、自己を確立することができる人間に育つことです。これからの社会で必要なのは、多様なメディアを自己のものとして利用し、収集処理し、それを基盤として新しい情報に転化していく創造的な人間であります。

ちょこっと一言 (104)

『アー、世の中そんなに甘くない!!』

新栄町五 高橋綾子さん

先日の産業まつりの『尻ずもう大会』に飛び入り参加。参加することに意義があるとか何とか言ってはいたが、コシヒカリ30キロが目の前にチラついていたのは正直なところ。出場者全員内に秘めたる闘志は相当なもの。よーし！私もガンバルゾ!! 意気揚々の一回戦。相手にとって不足はなし。『はっけよい、のこった…、のこった……』やった！勝った!!…と思ったのもつかの間、審判員より物言いがつき、『この一番とり直し～～』そんなバカな？結果、体力の無さと気力の無さか、無念の一回戦負け。ア～～～世の中そんなに甘くない！

コシヒカリよさようなら～～～！

スポーツ大会結果

第二回小須戸町シングルテニス大会

☆一般男子Aクラス（敬称略）
一位 田村幸夫（新津市）
二位 石塚信夫（加茂市）
三位 渡辺安規（蔵町一）

☆一般男子Bクラス
一位 松尾和則（鎌倉）
二位 小出正夫（新津市）
三位 野沢孝行（松ヶ丘）

☆一般女子
一位 加藤小百合（横川浜）
二位 渡辺栄子（蔵町一）
三位 上田百代（うでこき）

第六回町民親善ゴルフ大会

一位 風間武夫（三条市・新保出身）
二位 古泉金市（矢代田四）
三位 島倉義人（新町四）

※来年第七回の開催日は十月四日(土)です。

町民親善ゴルフ大会より
小須戸町体育協会へ金十万円手をつなぐ親の会へ金五万円が寄附されました。ありがとうございました。

公民館休館日のお知らせ
十一月二十三日（土・祝）
〈勤労感謝の日〉

「広島国体」に出場して

新津南高校から二人の先生が広島で開催された国民体育大会に出場されました。

両先生に大会に参加されての感想を述べていただきました。

担当科目 保健体育
南高校勤務歴 1年
出場種目 サッカー

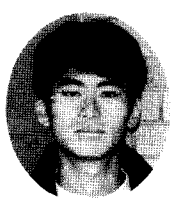
◎成海 優先生（二十九才）

私はこの度、広島県で開催された国民体育大会、サッカー競技（成年一部）に参加しました。

今回三度目の出場となるわけですが、昨年全国社会人大会準優勝だったこともあり、優勝を目標に週六日、午後七時から約二時間ハードなトレーニングを続け、試合に臨みました。

結果は、二回戦で前回優勝（今回準優勝）の福島に四戦の末、破れました。良い結果はだせませんでしたが、精一杯やったので悔いはありませんでした。

最後に、社会人になって六年目、多くの方々から暖かい支援にささえられ、現役を続けることができる「喜び」、「感謝の気持ち」を忘れることなく、より一層精進し、頑張っていこうと思っています。



担当科目 保健体育
南高校勤務歴 1年
出場種目 110Mハードル

◎下鳥達也先生（二十三才）

私は、広島で行われた国民体育大会に「成年一〇Mハードル」の選手として参加しました。今回で六回目の出場ですが、昨年から入賞が遠ざかっていたので、上位入賞を目標に広島に乗りこみました。

メイン会場の「広島ビッグアーチ陸上競技場」は、二年前のアジア大会でも使用された素晴らしい競技場でした。

試合には、万全の体調でむかえましたが、準決勝で足にアクシデントがあり決勝へ進めませんでした。予選の記録だけでも、五位に相当していたので、悔いの残るレースとなりました。

これをバネにして、来シーズンに向け、より一層努力していこうと思います。

小須戸分館 新保分館 運動会盛大に開催!!

十月六日（日）小須戸分館運動会・十月十三日（日）新保分館運動会が開催されました。

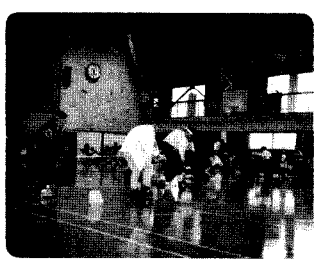
各チームとも強豪選手を送り出し、対抗種目や自由競技に熱のこもった運動会となり、楽しく一日を過ごしました。

成績は次のとおりです。

〈小須戸分館運動会〉
優勝 うでこきチーム
準優勝 梅チーム
三位 松チーム

〈新保分館運動会〉
優勝 竹チーム
準優勝 梅チーム
三位 松チーム

小須戸分館運動会から



新保分館運動会から

〝文化の日〟イベント

・第二十二回町民展・文芸展
・生花展・公民館活動展等
・矢代田分館文化祭
・新保分館文化祭

今年もご来場いただきありがとうございました。

十月二十六日～二十七日の矢代田分館文化祭。十一月二日～三日の新保分館文化祭。十一月二日～四日の町民展等と各地域で恒例となりました大イベントが開催されました。

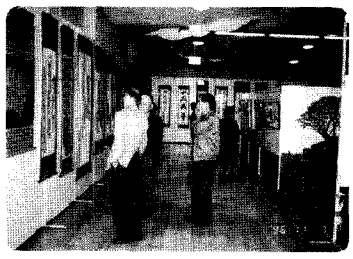
矢代田分館文化祭は、ふれあい会館を会場に広いスペースを上手に使い、数多くの作品が展示されました。

新保分館文化祭は、新保地域研修センターを会場に、菊花展や書道など多くの作品が展示されました。

町民展では、二百八十二点の作品が展示されました。

今年も会場展示を、二会場に分け、少しでもゆったりとした空間をつくり、見やすいように工夫をしました。

一階では、文芸展や公民館活動展、ロマンドールの展示。二階では、生花展と多数の団体よりご協力をいただきました。


第22回町民展

矢代田分館文化祭

一階から三階の各会場は関係団体や教室参加の受講生が創意と工夫をこらした飾りつけで見事に完成いたしました。

この日のために、コツコツと長い時間をかけ細かい部分までていねいにつくり上げた作品は芸術の秋にピッタリ!!

各地域で開かれた会場作りに際し、多くの皆さんから協力をいただき厚く御礼申し上げます。

又、各地域での文化祭に大勢の方からご来場いただき重ねて御礼申し上げます。

第十四回町民俳句大会
受賞発表

応募総数四百名以上の中から各部門に次の方々が入賞されました。おめでとうございます。

◎中学生の部　（敬称略）

町長賞　木村麻美（矢代田二）
議会議長賞　加藤容子（蔵町四）
教育長賞　滝澤夏樹（竜玄）
公民館長賞　市川雅史（天ヶ沢一）
文化協会長賞　高野麻衣子（若葉町一）
俳句同好会長賞　坂野貴洋（矢代田五）

◎高校生の部（新津南高校）

町長賞　滝澤知子（五泉市）
議会議長賞　平田正則（矢代田八）
教育長賞　田澤佳奈子（矢代中一）
公民館長賞　石川育代（新津市）
文化協会長賞　松本瞳（新津市）
俳句同好会長賞　星野彩（新津市）

◎一般の部

町長賞　吉沢文子（矢代田十一）
議会議長賞　間島秀穂（白根市）
教育長賞　坂井隆思（新保三）
公民館長賞　牧野信雄（大川前二）
文化協会長賞　田中美根子（本町一）
俳句同好会長賞　馬場綾子（新津市）

新保分館文化祭
菊花展受賞者

町長賞　斉藤長太郎（竜玄）
公民館長賞　石本一作（竜玄）
新潟日報賞　吉井ヒロエ（新保三）

10月のナイスショット

11日　つくしんぼ
「ミニ運動会」での様子です。玉入れ競技ではお母さんもお手伝い!!

16日　あすなろっ子広場
「食品添加物」についてを保健所の渡辺先生からのお話をしていただきました。

18日　ドイツ語入門教室
町民海外研修に参加する方々へ新大の白岩先生から2日間の講義をうけました。

催し物ご案内

◎生きがい講座のご案内

①日時　十二月五日（木）
午後一時三十分から三時
ふれあい会館和室

②日時　十二月六日（金）
午後一時三十分から三時
会場　中央公民館二階会議室
テーマ　「老いを楽しむ」
～自分の生き方を持つことの大切さ～
お話　坂井勲さん（亀田町在住新潟県落語協会長）

十二月のおもしろ雑学講座
日時　十二月十三日（金）
午後七時三十分～九時
会場　中央公民館二階会議室
テーマ　「よもやま話」
お話　小柳円暢さん（横川浜明願寺住職）

講演会
「子供が傷つくときいやされるとき」
日時　十一月三十日（土）
午後一時三十分～
場所　中央公民館二階ホール
講師　新潟県青陵女子短期大学教授
新潟大学名誉教授
前新潟大学附属幼稚園長
間藤侑先生

ますます深刻化する「いじめ」や「不登校」はどこに根ざしているのでしょうか。

端的に言って、周りの大人たちのかかわりの中から子供の心の中に生じてくるものではないかと思います。

子供はどんな時に傷つき、どんな時にいやされていくのでしょうか。

「幼児心理学」及び「子供の行動論」の第一人者である間藤侑先生をお迎えして、子供の心と、どう向き合い、どう接していったらいいかということについて、具体例をまじえながらじっくり語っていただくことになりました。多数の方々のご来場をお待ちしております。

～会員を募集します～

◎囲碁がお好きな方へ

日本棋院小須戸支部では、毎週火曜日夜七時～九時三十分（公民館二階休養室にて）

毎月第一、第四日曜日の一日（公民館二階会議室にて）

囲碁の手合わせをやっています。

囲碁がお好きな方、やってみたい方は是非おいで下さい。

会費は無料です。

ふれあい電話相談

◆十二月の相談日
六日㈮・十三日㈮・二十日㈮
※二十七日㈮は都合により休みします。
◆受付時間
午後一時～五時
◆電話番号
三八―三三〇〇

シリーズ「今、子どもたちは」(3)
豊かな心を育てる体験活動
矢代田小学校

花と緑に囲まれた矢代田小学校です。子供たち一人一人が自分たちの手で花作りや栽培活動をしています。

卒業式の会場は一人一鉢の満開のさくら草で飾られます。春には各学級のプランターに咲かせたチューリップで、校門から玄関まで色とりどりの花で埋め尽くされます。

学校の近くの畑をお借りしてさつまいも作りもしています。

畝作りやマルチ張りをPTAの方々からやっていただき、子供は、苗植え、草取り、そして収穫した後の楽しみは各学級で行う「さつまいもフェスティバル」です。

今、学校では裏山の落ち葉を集めて焼きいもにしたり、スイートポテト、モンブランなどを作り、収穫の喜びを味わっています。

リストアップ
歌好会

私たちの会は、発足して十年目になります。

はじめは八名でスタートしましたが、その後出入りがあり、現在は、男性五名、女性六名で活動しています。

中央公民館二階視聴覚室で、毎月第二、第四水曜日の夜七時三十分から九時三十分まで、講師の赤塚先生から一人ひとりレッスンをうけております。

また、三年前には民謡愛好会と共催してチャリティーショーを開催しました。

当会では、毎年新潟県カラオケ友の会の大会（清流杯）に出場しており、決勝で上位入賞をしたこともあります。

これから十一月中に他地区のカラオケクラブとの交歓会等を予定しています。

我が会は、気張らず、あせらず、和気あいあいと楽しく活動しています。

全員〝和〟を心掛け練習していこうと「のど」を鍛えている今日この頃です。

文芸欄

川柳

テレビっ子まん丸い月知らず居る　長井武雄
ボケたねと互に茶化す老夫婦　加藤米二
老夫婦余生それぞれ趣味に生き　吉田みな
名月に心の裏まで照らされる　保科志枝

短歌

もみじ葉にすず風あたる夕されば友の影ふむ尾瀬の渡り木　伊藤照渓
管長の手燭に像の浮き出だす新薬師寺の伐羅の激怒　我妻清作
老松の枝を刈り込む植木屋は吾子を見上げるごとく眺めし　小林芳子
農業の困難厳しきものなるか増産に泣き減反に泣く　鈴木ハナ

俳句

試歩の杖とめて見上げる赤とんぼ　井本マツ子
彼岸花踏み入る隙もなかりけり　小林富沙子
献燈に古里匂ふ秋まつり　田中美根子
箪笥より秋の匂ひのものを出す　五十嵐香月
円相に「空」の一文字茶室秋　間野良遊
鬼灯をならして妻の機嫌かな　成田水村
点滴の瓶に映りし秋の雲　吉沢文子
寄り添ふて碑のぞく草の花　馬場綾子
飛行機の飛び立つ先に雲の峰　藤井ハルヱ